

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 2月 4日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏名	可児俊信
研究課題	環境変化の中での共済会制度				
研究キーワード	福利厚生 労働 共済会 人事制度	当年度計画に対する 達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	8. 働きがいも経済成長も	10. 人や国の不平等をなくそう	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>共済会が抱える課題の洗い出しと対応事例の実態の把握を行った。ヒアリングできた共済会は 20 共済会である。</p> <p>課題は、共済会事業と会員ニーズとのミスマッチさらに会員の人口構成変化に伴う給付種類/給付額の変動が及ぼす財政の悪化または余剰金の積み上げであり、これは新型コロナ以前から存在していた課題である。もう一つの課題はコロナ禍で、会員の親睦事業やコミュニケーションイベントが開催困難となったことおよびそれに伴う財政の余剰の発生である。</p> <p>課題解決の事例としては、財政の余剰/悪化に対しては、会費の増額または減額ではなく、共済会事業内容の見直しによって事業支出の軽減または増額させ、収支を近郊に向かわせている。</p> <p>具体的には集合イベントに代わるコミュニケーション確保の手法としては、共済会会員が多様なニーズに応じて利用できる新たな共済会事業が普及し、外部サービスの導入がみられた。</p> <p>またはコロナを収まるまで事業の見直しを控える動きも多く見られた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>企業人事および共済会担当者向けセミナーでの開催/事例報告 人事専門誌等への寄稿</p> <p>3. 主な経費</p> <p>書籍 雑誌 コンピュータ関連経費</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>なし</p>					

(本文は2ページ以内にまとめること)